令和４年度　東京都立豊島高等学校全日制課程学校経営報告

校長　　大山　敏

１　今年度の取組状況と取組目標に対する自己評価

自己評価の基準：【A】十分達成できた　【B】概ね達成できた　【C】あまり達成できなかった

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
学習指導 理数教育重点校における思考力・判断力・表現力を養う授業への改善 【B】	① 定期考査や模擬試験の結果分析を踏まえた教科会における課題と学力向上策の明確化	① 教科主任・教科担任の分析会出席は定着した。第１、２学年で学年独自の分析による学力向上の方向性を生徒に示すことはできたが、教科科目ごとの課題や改善策の明確化はできなかった。
	② 主体的で対話的な深い学びを実現するための授業研究の実施	② 若手教員研修の研究授業の研究協議や教員の自己申告面接で管理職から深い学びを実現するために考えなければいけないことを示唆したが、若手も中堅もベテランもなかなか授業改善に取り組めていない。一方、一部の教員はハッとするほど授業が変わり、生徒の関心や探究心を喚起している授業改善が進んだ。ただ、全体として生徒の学校評価アンケート結果では、授業内容・教材・教え方の工夫に対する肯定的な評価は４９％にとどまっている。
	③ 教員相互の授業参観の実施	③ 第１学期の相互授業参観が実施され、第２学期以降は中堅教員や若手教員の研究授業を観て教員同士で意見交換する様子が見られた。
	④ 生徒の科学的思考力を高め、疑問点を自ら解決する態度の涵養	④ 昨年度に引き続き、理科や英語科の教員の指導により東京サイエンスフェアで科学の甲子園に参加したり、ポスターセッション、英語による研究成果のプレゼンテーションを一部の生徒が行ったりした。
進路指導 探究活動を通じたキャリア教育の充実による一段高い進路意識の保持 【A】	① 生徒が主体的に進路探究活動を行うための進路行事の内容充実	① 自前の探究テキストを活用した全学年で総合的な探究の時間を計画的に行い、グループごとのテーマ研究を充実させた。特に第２学年は修学旅行とＳＤＧ’s を関連付けて探究する取組を初めて行った。 　また、豊島セミナーに化粧品会社の研究員として働く方を呼んで高校自体の興味・関心を職業につなげていくプロセスを話し

		てもらうとともに、第１学年で「みらい会議」を行って生徒の将来への夢の実現への道筋を描かせ、進路意識を揺さぶった。しかし、生徒の学校評価アンケートへの回答では、進路実績の満足度は４７％どまりで、進学実績向上のための工夫についても４９％しか肯定的な評価がない。
	② 各種検定の実施や朝学習の充実など、スモールステップで進路意識を高める取組の充実	② 今年度は英語検定の第１、２学年全員受検を実施したが、担当者の休暇等による不在で他の検定試験は実施できなかった。朝学習は時差登校のまま完全に復活し、各学年のＨＲ担任が取り組んだ。
	③ 海外学校間交流推進校として姉妹校交流を進め、主体的に他者理解を深める取組の充実	③ 北京大学主催の日中高校生交流に昨年度から引き続き第２学年生徒が参加し、心理学や歴史学・美学・比較文化学などのテーマで講義を受け、各校の発表や意見交換に臨むなど、北京の高校と交流を行った。また、西安科学技術大学主催の兵馬俑研究の現状についての、西安博物館からの生中継を交えた講義・解説を２０名の生徒が受講した。
生活指導 全教員で統一した生活指導方針による校則遵守の組織的な指導と生徒の主体性の育成 【Ａ】	① あらゆる学校行事で実行委員公募を行うなど特別活動への生徒の主体的な取組の促進	① 前年度から生徒の委員を公募し、生徒が主体的に行事を企画運営し、歩こう会・体育祭・文化祭、ＶＲ体験スポーツＨＡＤＯを交えた球技大会・クラスマッチを実施し、講評や表彰も実行委員が自ら行うなど、形態を変えて行った。生徒は工夫して実行する意欲や態度を示した。学校評価アンケートでは、生徒の主体的な取り組みに対する生徒自身の肯定的な評価が７６％、保護者では８０％と、年々高くなってきている。
	② 部活動顧問による生徒指導の強化、学習活動と両立できる活動計画の徹底	② 部活動指導が思うに任せない状況ではあったが、顧問はよく生徒を指導し、特に吹奏楽部、サッカー部、バドミントン部、バスケットボール部などは好成績を収めた。グラウンドが使えないため、多くの部活動が遠方の外部施設を使用せざるを得ず、土曜日のスタディ・ラボの活用などによる学校総体としての学習活動との両立がうまくで

	③ 教育相談の手法を活用した学年と生活指導の連携による系統的な生徒指導の取組	きなかった。個々の部活動では勉強会などの時間を設け両立を図っていた。部活動に対する学校評価アンケートの満足度では、生徒７６％、保護者７０％と高い。 ③ 昨年度に引き続き第１、２学期に２週間にわたる面談週間を実施し、ＨＲ担任と生徒の人間関係形成や一段高い進路希望の維持に大いに役立った。また、教育相談委員会が特別に配慮の必要な生徒の状況把握と対応の方策立案に大いに貢献した。
心身の健康づくり 生徒一人一人の健康状態や体力の現状を的確に把握する、個に応じた健康指導の充実 【Ａ】	① 面談週間など学校への帰属感を高める生徒の心身の健康状態に即した教育相談の推進 ② 体力向上に向けた様々な取組の推進	① 学校行事や特別活動、二者面談や学年集会などをうまく組み合わせ、スクールカウンセラーの相談日数を増やし、コロナ禍でも生徒の学校への帰属意識を保持させ、転学・退学者数を昨年度に引き続き減らした。また、年５回の教育相談委員会で、生徒情報を共有した。 ② 体力テストの成績などはなかなか向上していないものの、体育の各活動や体育的行事に一生懸命取り組む生徒は相変わらず多く、体力向上を図る場面も姿勢も多くの場面で見られている。
募集・広報活動 本校の特色ある教育活動への理解を深め入学を希望する中学生の増加 【Ａ】	① ホームページの内容充実、学校案内のレイアウトや内容の刷新 ② 入学者のいない学校や地区の上級学校講話や校外合同説明会等への参加	① ホームページからの部活動体験や見学の申し込み機能や学校案内の内容を整備した結果、学校見学会と個別相談会で４３８３名の来校者を得ることができた。 ② 昨年度に引き続き杉並区や中野区、世田谷区の全中学校で視聴する動画の提供を行うことができた。その結果、当該区の中学校からの受検希望者が大幅に増えた。
学校経営・組織体制 生徒の自己実現の支援に全力を傾注する学校経営の組織的な展開 【Ｂ】	① 企画調整会議を中心とした分掌部会や学年会、教科会の連携の一層強化 ② 会議運営の効率化をはじめとした計画的な業務の進行管理 ③ ライフ・ワーク・バランスの実現を目指す、業務が偏在しない、同僚性の高	① 企画調整会議中心で職員会議は月１回開けなかったものの、学校の将来像について議論できる態勢を続けることができた。 ② 企画調整会議の円滑な運営を図りながら、生徒の進路実績向上のための取組から教員の働き方改革まで、課題解決に向けた意見交換を活発に行うことがある程度できた。 ③ 分掌主任や部活動の主顧問に一部業務が偏った嫌いはあるものの、勤務時間外の残業

	い職場づくり	者は減り、学年担任団の同僚性は高かった。また、複数の男性教員が育児休業やそれに準じる休暇を実際に取得している。

２　数値目標と達成数値

数値目標	達成数値
○　家庭学習時間を第１学年は１．５時間、第２学年は２時間	○第１学年１．４５時間、第２学年１．１６時間
○　国公立大学＋難関私立大学＋ＧＭＡＲＣＨ合格者延べ人数９２名	○６６名
○　大学入学共通テストにおける教科・科目ごとの平均点が全国平均の９５％以上	○達成６科目、未達成１１科目
○　英語検定準２級以上取得１５０名、漢字検定準２級以上取得５０名、数学検定２級以上３０名	○英検３６１名、漢検、数検未実施
○　学校説明会参加者延べ人数３０００名	○４３８３名
○　推薦入試倍率４倍	○３．８４倍
○　一般入試倍率２倍	○２倍
○　１日当たりのクラス平均遅刻者数０．１人	○０．９人
○　部活動加入率９５％（文化部兼部延べ人数で計算すると１１０％）	○９３．０％

３　次年度に向けた課題と対応策

本校の目標である一段高い進路希望の実現と生徒の主体性の向上に向けて、学校改革を進めている。自己評価を【Ｂ】とした項目を中心に対応策を以下に示す。

学習指導では、一部の教員に目覚ましい授業改善の意欲と成果は見られたものの、今年度も総体として教員の授業力向上と授業改善を目指したが十分とは言えない。昨年度から理数教育重点校に指定されているので、理科や数学に興味をもてる行事を更に増やすとともに、学力向上へのインセンティブ形成に生かしていく。また、先進校視察や動画視聴も含めた研修の推進により、学校全体で教育活動を改善していく。さらに、学年担任の教員自身が行う模試分析から本校の生徒の苦手分野を早期に発見する取り組みは進んできているので、教科・科目での自前の分析を基にした補習や講習の手当てを考える。進路部から教科主任、教科主任から教科のラインを明確にして講習等を行っていく。

生徒の心身の健康づくりでは、教育相談委員会を中核として、生徒の発達や心身の状況や発達について特別支援教育コーディネーターを中心にスクールカウンセラーと連携しながら意見交換を行った。しかし、今年度も専門家を講師とした研修を企画も実行もできなかった。進路関係はもちろん、心身の健康づくりでも家庭と連携する必要から、第３学年で昨年度から実現している全生徒の三者面談や保護者との二者面談を行い、校内で情報共有していく。

また、【Ａ】とした項目でも、本校の進学実績を上げるための課題は残っている。全教員のコンセンサスづくりなどを丁寧に行っていく。